若　駒

階上町立赤保内小学校新聞　第８号
令和５年１２月２１日発行
校　長　山　田　　昇

認め合える社会とは・・・人の個性を理解し、尊重する

１１月２４日、階上町社会福祉大会が開催され、本校からは、５年生がボランティア推進校活動発表を行い、階上町社会福祉作文入賞者として６年生５名が表彰されました。

５年生は、校内での「あいさつ」が良くなるように自分たちで考えた取り組みの様子を、元気に発表してくれました。分かりやすくて、立派な発表だったと会場にいらっしゃった方からおほめの言葉をいただきました。

社会福祉作文で最優秀賞を受賞した泉山唯翔さんは、会場の皆さんの前で作文を読みました。「社協だより」にも掲載されているので読まれた方もいらっしゃると思いますが、ご紹介したいと思います。

「ぼくの個性」

赤保内小学校　６年　泉山　唯翔

福祉とは何か。ぼくはその言葉を調べました。福祉とは全ての人々の命を大切にし、くらしを豊かにして、いきがいを見つけることを支えること。世の中には、目が見えない人や、耳が聞こえない人、体が不自由な人など、自分たちが思っている人よりも、多くの人が困っているのかもしれません。生活に不便を感じている人たちに、ぼくは何ができるのかを考えました。

ぼくにはきつ音があります。きつ音とは、うまく言葉が口から出せなくなったり、どもったりすることです。ぼくは、そんなにひどくはないけど、言おうとした言葉が出にくいことがあります。歌う時はきつ音は出ないけど、人前で話したり、初めて会う人と話す時は多く出ます。友だちと話している時も、言葉がうまく出ないので話の流れに、追いつけなかったりもします。話をあきらめてしまうこともあります。もしかしたら、体が不自由な人も、生活の中で何かをあきらめてしまうことがあるのかもしれません。

ぼくの場合、言い方を真似されたり笑われたりすることがあります。くやしい気持ちにはなるけど、「言い方より話す内容の方が大切だよ。」と、母は言います。きつ音はあるけど、それは、ぼくの「個性」だと思って前向きに考えられるようになりました。

ぼくには、夢があります。それは、小さい子供が好きなので小学校の先生になりたいです。きつ音だから心配だったけど、アナウンサーや俳優になっている人もいるそうです。体が不自由でもスポーツだってできるし、耳が不自由でも、音楽に関わっている人もいます。いろいろな人がいる中で、それぞれに個性があり、それぞれに夢があります。だからぼくは、人に対して思いやりをもち、自分の夢に向かって進んでいきます。

社会福祉大会が終わって、数日たったある日、用事があって学校にいらっしゃったある方が、唯翔さんの作文のことを話題に出しました。この方は、福祉大会の時に会場で唯翔さんの作文をじかに聞いていたそうです。「自分もきつ音があるので、唯翔君の作文を聞いていて、顔を上げられなくなってしまいました。（おそらく下を向いたまま涙ぐまれていたのだと思います。）お母さんの言葉が本当にすばらしかったですね。」今でも感動したことを忘れられないかのように、私に話してくださいました。また、先週はわざわざ電話で「社協だよりに掲載された唯翔君の作文が、あまりにすばらしくて電話してしまいました。心が明るくなりました。」という内容のおほめの電話でした。きっと個性を理解してもらう難しさや、それを個性として希望をもつことの重要性に共感してくださった方たちだと私は感じました。世の中の人たちに、こういう思いやりの心が多くなればなるほど、みんなが安心して穏やかに暮らせる世界になりそうな気がします。

唯翔さん、たくさんの人に大切なことを気付かせてくれて本当にありがとう。

階上町社会福祉作文入選者

〇最優秀　６年　泉山　唯翔
〇佳　作　６年　川畑　煌真　　６年　荒津内奏大
　　６年　星　　有桜　　６年　堀内　淳史

５年生の活動発表の様子

おいしいやきいもできました～１年生

１１月１３日、１年生がやきいも出前講座を実施しました。講師は種差少年自然の家の方２名に来ていただきました。お一人は平成２７年度から平成３０年度まで本校の校長を務められた田中強先生でした。少し肌寒い日でしたが、子どもたちはさつまいもを湿らせた新聞紙とアルミホイルで包み、用意していただいた網の上にのせてもらって、炭でじっくりと焼いてもらいました。焼くのを待っている間には、今までやったことのないスポーツも体験させていただきました。もちろん、焼きあがったやきいものおいしさは格別でした。子どもたちは収穫の喜びと、これまで収穫に携わってくださった様々な人たちへの感謝を感じながら、あまいやきいものおいしさを味わっていました。

縦割り班 19 班での長なわチャレンジ！！

普段から１９の縦割り班に分かれて様々な活動を行っています。１１月２１日には長なわで１分間に何回跳べるかチャレンジする活動を行いました。キッズタイムという時間を使って練習もしてきましたが、各班で教え合ったり作戦を立てたりしながら、自分たちの班の記録が伸びるようにがんばりました。跳べなかった子への励ましや、新記録を作った時の連帯感など、普段学べないことがたくさん学べました。

デジタルタイマー大切に使います

２１日のデーリー東北新聞にも掲載されましたが、農機具販売などを営む「野原」さんより、デジタルタイマーを寄贈していただきました。寄贈式には、同社代表で本校の保護者でもある川上ご夫妻が駆け付け、「子どもたちのためにご活用ください。」と言葉をかけてくださいました。スポーツ・運動をする場面はもちろん、さまざまな教育活動で活用させていただく予定です。本当にありがとうございました。